

## 学校経営推進費 評価報告書（２年め）

### １．事業計画の概要

学校名	大阪府立大阪南視覚支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視覚障がい児における教育環境整備</li> <li>・ 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上</li> <li>・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信</li> </ul>
計画名	視覚障がいを伴う重複障がい児の教育充実プロジェクト

### ２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>幼児・児童・生徒の障がいの多様化・重複化に対応し、一人ひとりの教育的ニーズに対応した指導・支援を行う。</p> <p>※R4 重複障がいプロジェクトチームでの検討を開始⇒R5 支援方策を共有し検証⇒R6 幼～高で本格運用</p> <p>※R5 学校経営推進費事業「視覚障がいを伴う重複障がい児の教育充実プロジェクト」に取り組む環境を整備</p> <p>⇒R6 年度授業での実践と確認、教員研修⇒R7 年度には取組みと成果を全国に発信</p>
事業目標	<p>【背景】近年、全国的に視覚支援学校においては児童生徒数の減少と在籍者の重度重複化・多様化がみられ、本校も同様で、視覚障がいに加え重度の自閉児、強度行動障害、肢体不自由、医療的ケアなどを有する児童等が増加。その対応のため、昨年度から校内 PT を発足、その充実のため本事業を実施する。</p> <p>【事業目標と内容】視覚障がいを伴う重複障がい児の教育環境の整備と教育内容の充実を図る。</p> <p><b>１．環境の整備</b></p> <p>① 触覚的環境認知ができる校舎環境の整備（１階エントランスにおける環境整備） 校内において点字ブロックに加え、柱に触覚的なアクセントを設置する他、床面も柱の周りのみアクセントをつけ、重複障がい児自身が自分が現在居る場所を把握しやすくする。アクセントを視覚的に認知しやすい色で分けることで、弱視児の環境把握にも役立つ。</p> <p>② 触察しやすい畑の整備（２階屋上にある畑の整備） 視覚障がいを伴う重複障がい児にとって、従来の畑では、長時間腰を曲げるなど、触察による観察や活動は姿勢維持が困難である。そのため、新たに高さのある大型プランター型の畑を整備し、触察しやすい環境を整え教育活動を充実させる。</p> <p>③ 視覚障がいを伴う重複障がい児のスヌーズレンスペースの整備 視覚障がいを伴う重複障がい児がパニックになった際などに使用する常設のクールダウンスペースをスヌーズレン等も活用して新たに整備する。触覚的・聴覚的・視覚的に落ち着ける環境が常にあることで、心を落ち着かせる心地よい環境を作り、精神的な安定をサポートする。</p> <p><b>２．視覚障がいを伴う重複障がい児についての授業研究及び専門性向上</b> 当該分野の研究者を講師として学校に招き研修を行うとともに、日頃の授業について研究を行う。また、より細やかに実態把握を行うため視覚重複障がい児における必要なアセスメント用具（検査器具等）を整備する。</p>

<b>整備した 設備・物品</b>	① 1階エントランスの整備、触覚環境認知出来る素材工事 ② 2階屋上、触察しやすい畑の整備 ③ 3階クールダウンスペースの整備 ④ アセスメント用具の整備
<b>取組みの 主担・実施者</b>	主 担：首席を中心とした全校組織「重複障がい教育プロジェクトチーム」に、指導教諭、各学部担当者が入り、研究を進めていく。また、企画調整会議において、校長、教頭、各部主事等に随時報告を行い、多くの教員と連携しながら進めていく。 実施者：全教職員
<b>本年度の 取組内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全校組織としての重複障がい教育プロジェクトチームの話し合いを6回実施した。            (①5月16日 ②6月20日 ③7月11日 ④10月17日 ⑤12月19日 ⑥2月20日)</li> <li>・ 各学部の実態把握と情報共有を行い、幼稚部、小学部、中学部、高等部の全在籍児の眼疾患名一覧表にまとめ職員会議等を通じて周知した。(6月)</li> <li>・ 地域支援整備事業広域支援グループ、リーディングスタッフに対して学校環境整備と取組みの紹介(6月)</li> <li>・ 日本ライトハウス歩行訓練士養成課程の視覚支援学校教員及び盲導犬協会等の職員に環境整備と実践の紹介(6月)</li> <li>・ 全校職員に重複障がい教育の授業実践の公開(9月)</li> <li>・ 筑波大学の佐島教授による講演会「視覚障がいを伴う重複障がい児の教育の充実について」と題して、職員研修会を実施。近畿地区視覚支援学校及び本校支援先教員含め約150名の参加(12/25)</li> <li>・ 京都国際社会福祉センター開催の新版K式発達検査(初級)講習会に参加(1/24～1/26)</li> <li>・ 重複障がいプロジェクトチームで購入した教材の指導実践の報告会実施(2/10)</li> <li>・ 2年目の取組みにおける全校アンケート調査の実施(3月)</li> <li>・ 視覚障がいを伴う重複障がい児におけるアセスメント形態の検討及び発達指標等の検討(年間)</li> <li>・ 近畿地区盲学校研究会及び外部見学者等に対して、環境整備の紹介(年間)</li> </ul>
<b>成果の検証方法 と評価指標</b>	① 学校教育自己診断の質問項目に新たに「学校は視覚障がい者にとって安全に整備されているか」の項目を追加し、(児童・生徒・学生)70%以上の肯定的意見を得る。 ② 2年目の取組内容に対する職員評価アンケートを行い、肯定的意見で70%以上を得るとともに、近畿地区の研修会等において実践を公開し、取組み事例を全体共有していく。
<b>自己評価</b>	① 学校教育自己診断(児童・生徒・学生)における質問項目「学校は視覚障がい者にとって安全に整備されているか」について70%以上の肯定的意見を得る。(91%)……【◎】 ⇒ 評価指標の70%を大幅に超え、幼稚部、小学部、中学部、高等部においては、100%の肯定的評価を得られた。これは、今回の整備は主に重複児を中心に行っていたが、触感覚で分かる柱や立ち上げ式の畑、ヨギボー等のスペースは、単一障がいの在籍者にとっても学校環境向上に繋がっていると考えられる。一方で、医療系職業学科の専修部の学生にとってはカリキュラムにない畑や静養目的のスノーズレンの活用が難しいと考えられる。今後、評価指標を、実際に整備の活用が考えられる幼～高に変更も検討したい。 ② 2年目における取組内容の職員評価アンケートを行い、肯定的意見で70%以上を得るとともに、近畿地区の研修会等において実践を公開し、取組み事例を全体共有していく。 ⇒ 今年度の整備項目について、1階のエントランススペースの柱の整備においては、歩行環境が改善されたとされる、肯定的評価が全体の75%であった。また、2階屋外の畑の整備においては、改善されたとの意見が全体の73%であり、3階のスノーズレンスペースの整備においては、効果が見られたとされる評価が75%となり、主な整備の項目いずれにおいても、目標の70%を超え、評価指標を上回る結果となった。また、今年度の取組み内容を整備前と整備後に画像等でまとめ、学校運営協議会等においても効果を報告した。……………【◎】

<p>次年度に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間における整備したものにおける活用の差があるので、周知の徹底と活用方法の紹介を継続していく</li> <li>・それぞれの環境整備及び教材の実践記録の集約と取組みの全国発表</li> <li>・外部講師による専門研修の実施</li> </ul>
----------------	--

### 3. 事業費報告

<p>今年度事業費総額</p>	<p>85,000 円</p>
-----------------	-----------------

#### 積算内訳

\* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

積算内訳	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
	1 報償費	1	重複障がい児に関する専門研修	¥50,000	1	¥50,000
		2				
		3				
						小計 50000
	10 負担金・補助及び交付金	1	新版K式発達検査2020 受講料	¥35,000	1	¥35,000
		2				
		3				
						小計 35000
						合計 ¥85,000